

令和元年 7 月 10 日

新潟市長 中原八一 様

「Noism のある新潟市」継続を求める新潟市民有志一同
代表 舞踊家 井関佐和子を応援する会「さわさわ会」会長
シネ・ウインド代表
齋藤正行

Noism の活動継続を求める要望書

市政への日頃からのご尽力に敬意を表します。

さて、過日の新聞報道ですが、Noism の令和 2 年（2020 年）9 月以降の活動につきましては、今年 8 月までに市長が判断される予定とありまして、同じ記事の中には、「Noism は強い支持がある一方、市民の理解度は不足している」との認識も示されていました。そこで、Noism と新潟市について私たちが思うところを伝えるのは、今を措いて他にないと考え、今日ここに集いました。

先日のロシア・モスクワ公演で得た世界的な評価なども、今に始まったことではありません。公演を打つ毎に、Noism への高い関心は国内外から大きな声となって届いて参ります。しかし、いかんせん、さほど認知度の高くないコンテンポラリーダンスであるために、目立って「市民の理解度」に繋がるとは言えない側面があることは否めません。但し、少なからぬ関心を抱く者にしてみれば、世界中から寄せられる Noism を待望する声に対して耳を塞ぐことは難しい状況です。

現在、新潟市が深刻な財政状態にあることは理解しています。しかし、新潟市に根付いた豊かな舞踊芸術文化を大切に継続してほしいと願っています。文化の醸成には時間がかかるものですし、簡単に「接ぎ木」ができるものでもありません。新潟市は Noism が手にしてきた輝かしい成果を、誇りをもって受け取り、未来志向で、内外に向けて発信してほしいと思います。

国内外からの関心の高さを思うにつけ、Noism を、新潟市へ人やものを呼び込む好適なコンテンツと位置付けて活用する、実効ある方途がこれまで探られずに来たことが惜しまれます。しかし、時計の針は戻せません。Noism が世界規模で獲得してきた名声、それを可能にしたのが、他ならぬ私たちの新潟市であるという誇り高い事実を思うとき、今、なすべきことは、不足しているとされる「市民の理解度」との隔たりを埋める工夫と努力ではないでしょうか。

Noism 芸術監督の金森穰さん、副芸術監督の井関佐和子さんは、15年間も新潟市に住んでいる新潟市民です。そして国内外からオーディションで選ばれた Noism メンバー全員も新潟市に住む新潟市民です。

金森穰 Noism は新潟の地に根差し、新潟の自然環境、風、雪、海、夕日に大きな影響を受けて創作を続けています。

新潟市民として作品を創り、「新潟市」の文化発信に努めている金森穰 Noism。本当に得難い芸術監督であり、ダンスカンパニーなのです。この街に Noism があること、それは新潟市への他に類を見ない文化貢献そのものであり、新潟市政・Noism・新潟市民にとっての「三方よし」、三者の幸福なのです。

令和2年(2020年)9月以降も、永く Noism がその創造的な活動を継続していけるようにお取り計らいくださいますよう、ここに強く要望するものです。

「Noism のある新潟市」継続を求める新潟市民有志
代表団体名 舞踊家 井関佐和子を応援する会「さわさわ会」、シネ・ウインド
住所 新潟市中央区八千代2-1-1 シネ・ウインド代表 斎藤正行

Noism サポーターズ Unofficial 事務局長 (代表) 越野泉

新潟総踊り実行委員会 副会長 能登剛史